



板一中 小中一貫学びのエリア（板二小・板六小・板七小・板一中）



板二小ホームページ QRコード

板二だより

学校情報化優良校・ユネスコスクール認定校

板橋教育ビジョン研究奨励校（自己調整学習）

小学校教科担任制等推進モデル校

令和7年度10月号

令和7年9月30日

板橋区立板橋第二小学校

校長 小澤 裕行

子供たちの宝物「ビオトープ」の再生

副校長 齊藤 孝之

7月の児童朝会で、私は全校の子供たちに、「板二小はどんな学校ですか？『〇〇学校』の〇〇に文字を入れて教えてください」と投げかけました。そして、「〇〇学校」と書いた紙を1人ずつ渡して子供たちに書いてもらいました。最も多かったのが「仲良し学校」「楽しく元気な学校」です。子供たちが、互いに仲が良く家族のような温かい学校を誇りに思っていることが伺えます。次に多かったのが、「緑の学校」「自然がある学校」です。子供たちが、校内に自然がたくさんあり、生き物が生息していることを誇りに思っていることが伺えます。学校の周りは高速道路が走り、高層ビルが立ち並んでいます。しかし、学校に一步入ると、ビオトープやコミュニティガーデンの緑が子供たちを迎えてくれます。朝、教室の窓を開けると小鳥のさえずりが聞こえ、休み時間にはオタマジャクシやメダカ、トンボを追いかける子供たちの姿、農園でエンドウやミニトマトを収穫する姿など、自然に親しむ子供たちの姿を見ることができます。

しかし、このような自然豊かな環境がはじめてあったわけではありません。きっかけは、平成14年に地域の方と一緒に草花を植えるコミュニティガーデンを始めたことです。そして、平成24年に本校が「いたばし教育ビジョン学力向上推進校（環境）」に指定され、体育館の側にビオトープ（現在の第二ビオトープ）を含めた「自然の森」を作りました。さらに、令和元年には2つめのビオトープを玄関前に作り、メダカやオタマジャクシを放流して「自然の広場」を作りました。これら2つのビオトープを活用して全校児童が1年を通して「自然発見カード」を書いて展示をしたり、総合的な学習で興味のある事柄を自ら調べたりして、子供たちは、自然に興味関心をもち、すすんでかかわろうとする態度を身に付けていきました。

しかし、子供たちが親しんできたビオトープが、土砂が溜まって水が少なくなってしまう、荒れた状態になっています。メダカやトンボが姿を消し、池の周りは背の高い雑草に覆われてしまいました。このまま放置しておくと、生き物が寄ってこない単なる草地になってしまいます。ただ、このような状態になっても、クヌギの木から落ちてきたドングリからたくさんの実生（種から芽が出て成長すること）が生えており、今後手入れをすれば、立派なクヌギ林を育てられる可能性もあるそうです。

そこで、長年お世話になっている、NPO法人センスオブアース（代表寺田茂先生）の皆様の助力をお借りして、ビオトープを再生することにしました。保護者の皆様も、もしお時間をいただけるなら、一緒にお手伝いいただくと大変助かります。詳細は裏のページをご覧ください。

【今まで行った活動の内容と今後の予定】

- ① 7月23日（水）教職員が古い池を撤去しました。
- ② 9月23日（祝）センスオブアースの皆様と教職員とで土砂に埋まった池を掘り下げました
- ③ 10月2日（木）3・4年生が寺田先生の出前授業を受けます。
- ④ 10月13日（祝）センスオブアースの皆様と教職員とでビオトープ整地作業を行う。
- ⑤ 10月25日（土）保護者教職員セントオブアースの皆様とでビオトープの整地作業を行う
- ⑥ 11月未定 5・6年生、土嚢（どのう）に土を入れ、池のかさを上げる。
- ⑥ 12月未定 1・2年生が土や草木を植える。